



と、デンと目の前に蔵が現れ、中で暖かそうな靴下やセーター、コート達が休んでいる。ここへ初めてやって来る客はみな、どうしてこんなところに店を出したのかと思うらしい。私もそうだった。というのも、この東岩瀬は幕末から明治初期にかけて北前船で栄えた町で、その後も富山の外港として発展した。戦後、道路網の整備やトラック運送の発達で港運送にも翳りが射し町も活気がなくなってしまった。そんな岩瀬で何故……。

「商店街に店を出せば儲かる、という保証は何一つない」と店主重松氏は話してくれた。「様式を考える時、ウェアと気候・風土とは切り放せない関係にある。富山の気候・風土に耐えうる本物のウェアを提供するためには、はりぼてではない、本物の空間が必要だったから」と、そして、そのこだわりは良心の問題だとも。

昔の職人さんは、「これくらいの仕事はしとかにゃ」と、良心と戦いながら納得のいくいい仕事を残してくれた。それをこういう形で、今様に活かすことも出来るのだと改めて教えられた気がする。「家の蔵も壊さんにかいかった」「家のもこんながになるかな」と、町の人達が寄ってくれるのがなによりもうれしいらしい。

港町の古い民家が、素敵なCOMMONになりました。  
—彩子

## 北陸の新春まつり情報

- フードピア金沢(1/28-2/5)金沢市内／北陸の風土と食をテーマとする石川県の冬の祭り。食談など新鮮な冬の幸を賞味。
- 文弥(ブンヤ)まつり(2/11, 12, 18, 19)尾口村／300年来の文楽以前の古態を伝える文弥人形浄瑠璃。国指定重要無形民俗文化財。
- おいでまつり(3/18-23)羽咋市気多神社／神馬、神職、御輿、錦旗、太鼓等約50名の行列が2市2郡、約300kmを古式豊かに行列する。
- 第20回水仙まつり(1月中旬-2月中旬)河野村、越前町、越前村／冬の越前海岸ではすっかりおなじみの花。各種プレゼントや特産品即売会が行われる。
- 睦月神事(2/14)清水町大森区／700年の伝統をもつ田楽風の舞と語り、お囃しなどが行われる(4年に1度だけ)。国指定重要無形民俗文化財。
- 田楽能舞思い出の一日(2/15)池田町鶴甘神社／鎌倉時代より受け継がれている幽幻な舞。
- ふれあい梅まつり(2/26-3/19)三方町／三方五湖に春を告げる梅の木を伊良積梅園にて散策。
- 諏訪大社下社遷座祭(2/1)下諏訪町諏訪大社下社／御神体が

- 半年毎に移動するという他の神社には見られない古来の祭祀で、神霊渡御の行列が秋宮から春宮に向かう。
- 国宝仁科神明宮祈念祭古式作始めの神事(3/15)大町市仁科神明宮神楽殿／古くからその年の作柄の豊凶を占う神事として行われる。作付けの一大指針として地方の期待を担っており、苗作りの農作業をモチーフとしている。
- 荒掘夜明かし念仏(3/20)小諸市荒掘薬師堂／花で飾ったやぐらの中で子供たちの大数珠回しや、大人たちが鉦をたたき念仏を唱えながら踊る念仏踊り。小諸市の無形文化財。
- 本成寺節分鬼をどり(2/3)三条市／金物の町に相応しく、斧、鋸などの刃物をもった色とりどりの鬼を年男が退治する。
- 十日町雪祭り(2/17-19)十日町市／ギネスブックにも載った世界一の雪造舞台で繰り広げられる雪上カーニバルはロマンの世界に誘う。
- 冬季雪譜祭(2/18)南魚沼郡塩沢町／北越雪譜の著者鈴木牧水を偲ぶ祭。
- 古志の火祭り(3/5)古志郡山古志村／日本一のさいの神。高25m、径10m。
- とやま・福岡家族旅行村冬のふれあい市(2/5)福岡町／ながつアイズホッケー大会。
- 五箇山雪まつりイン平村(2/11-12)平村／かんじきカンントリー選手権大会。
- 利賀そば祭り(2/24-26)利賀村／そば・山菜料理・どぶろく酒を味わう。
- ひなまつりファン感謝デー(3/3)極楽坂・らいちょうバレー・粟巣野各スキー場／リフト・ゴンドラを女性のみ午後無料開放。
- わかさぎ釣り大会(3月上旬)城端町桜ヶ池公園／釣った量で景品がもらえる。

## 支部インフォメーション

- 95年度北陸支部大会の研究・技術発表論文等の募集  
今年度の支部大会は8月4日(金)、5日(土)に柏崎市の新潟工科大学で予定されていますが、その論文原稿締切は3月22日(水)です。詳しくは「建築雑誌」2月号をごらんください。
- 公開捜査：主は何処へ?/  
昨年(8月29日)の北陸支部大会の忘れ物です。夏物のモスグリーンの上着です。ズボンはありません。内ポケットにローマ字でYamazakiと刺繍されています。夏の夜だったらちょっと奇々怪々で涼しい話題になりそうですが、半年もたったこの寒い時期ではどうしたものかと困惑気味です。お心当たりの方は下記にご連絡下さい。あと一ヶ月保管させていただきます。

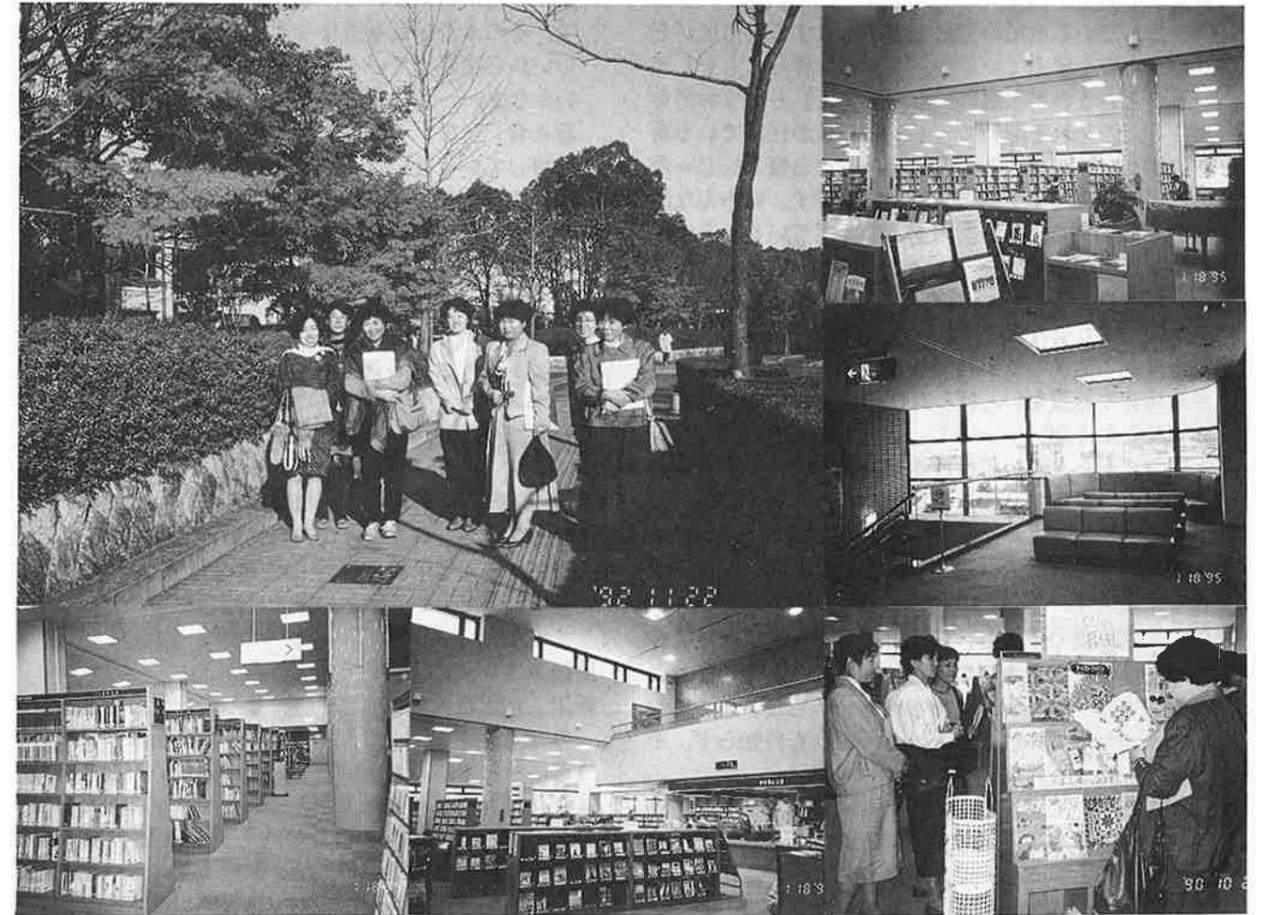
高岡短期大学産業工芸学科 秦 正徳  
電話：0776-25-8411 (内線308)  
FAX：0776-25-8535

## 日本建築学会北陸支部ニュース「AH!」第3号

発行日 1995年1月25日  
発行 日本建築学会北陸支部広報部会  
木原 隆明(新潟) 尾久 彩子(富山)  
河内 浩志(石川) 増田 達男(石川)  
桜井 康宏(福井) 五十田 博(長野)  
事務局 村井 義則・久保 香里  
〒920 金沢市玉川町5-15  
TEL 0762-20-5565 FAX 0762-60-1502



特集  
家庭の主婦もパワフルに



新年明けましておめでとうございます。広域にわたる北陸支部で互いの顔が次第に判ってくるような人間情報誌をめざして始まった「AH!」も、当初予定した年間3号の発行をなんとか達成することができました。投稿をいただいた皆さんと座談会にご出席いただいた皆さんに心より感謝申し上げます。さて、「女性と建築」を年間テーマとした特集企画の今回は、福井の「図書館の夢を語る会」でパワフルに活躍する家庭の主婦の皆さんにお集まりいただきました。その熱弁からは、広く「まちづくり」の計画論、運動論として専門雑誌に投稿すべき内容が多々うかがわれましたが、例によってその部分は大幅にカットして、人間情報誌に徹して編集した責任は広報部長にあることを今回もお断りしておきます。座談会の全記録を冊子(A4、33ページ)にまとめてありますので、興味ある方は事務局までご連絡ください。



# 家庭の主婦もパワフルに

## 図書館には市民の姿が反映する

学生：今日は福井の「図書館の夢を語る会」の皆さんにお集まりいただきましたが、会の発足や活動の様子についてご紹介いただけますか。

坪川：福井で2番目の市立図書館の建設が契機だったんです。市の建設計画のコンサルタントをなさった方とお話する機会があって、その時に「図書館というのは、住んでいる市民の力量を表すんですよ。市民がどういうものを望んでいるか、どういう暮らし方をしているかというのが正直に出るんですよ」というお話をなさった。それを聞いて「じゃあ、私が住んでいる所に仕様もない図書館しか出来なかったら悔しいじゃないの……」って単純に思っちゃったんです。いろんな思いを膨らませて、いい図書館につなげていくことができるなら何かやってみようかなと思って、友だちと「一緒にやろう、一緒にやろう」ってお誘いして広がって出来た会なんです。

庄野：出来てしまってから「ここもあそこも」と苦情のある建物や施設をいっぱい耳にするんですよ。そんなものにはしたくない……って。とくに私は地域的に近いものですから、歩いて行けるし、歳をとってからも利用できるかなって。すると自分の老後が豊かになった気がして嬉しくて。そしたら、私たちには「使いやすい」ということを素直にぶつけていけばいいかなって思ったんです。

服部：公共施設の中でも、住民と行政が一緒になって作るより良くなるものの筆頭が図書館なんですよ。

大久保：もう一つ、素人だから何も分からないままに行政にぶつかっていった、というか怖いもの知らず、それがあったような気がします。

服部：黙っていて実現しないよりも、言ってダメなら納得もいく、ヒョッドして実現するかもしれない、それなら言いましょか……というのが主婦の感覚なんです。

坪川：同じ苦情の言い方でも「何でこれはこうなんですか」ではなく、「あの～素人でよう分からんのやけどここ困っているんやけど～」って、で、「こうした方がいいんじゃないかって思うんやけど、どうやる



か？」って。ここが女の人のすごいところで、ズルイといえばズルイのかも知れないけれど、生活の知恵だなあ……と。

学生：「図書館の夢を語る会」という名前の謂れはどういうことですか。

坪川：なんか構えないで、本音をポロポロっと出し合えて、その本音が積み重なって、十のうちほんの一つでもいいから実現していくような、そういうことが出来なかなあ……という思いで。最初は「図書館への夢を語る会」って、こっちに私たちがいて気持ちをまとめて持っていくというニュアンスだったんですが、皆に馴染まないという思いがあったんです。

服部：図書館というのは行政が作ってくれる施設面もあるけれども、利用する側もあって、利用者で良くなるもの……っていう共通理解があったから「図書館への夢」ではなく「図書館の夢」。その方が両方で支え合っているという感じでピッタリくるのじゃないか……と。

## 図書館のハードとソフト

学生：実際の設計にはどんな風に反映されていますか。

庄野：私たちと同じような方向で考えていらしたことも一杯あるんですけど、全面的に受け入れられたわけじゃなくて、いくつかの点では残念だった……と思っています。

服部：スロープは良くできてるね。

坪川：わざわざスロープを作りました……というようなのは絶対嫌と言ってたんです。それに階段の手摺が二重になっていると子供のことを考えているなあって。それは人を受け入れようっていうサインに映るんですね。それから、児童のところの床材を随分話し合っていて、清潔を保てるもの、できればコルクコートで床暖房にしてください……って。結果的には木になって音がちょっと。やっぱりコルクの方がよかったです。それに最大の問題点は「語り聞かせ」の部屋が無いこと。「ストーリーテリング」っていう活動のための部屋で、一番最初から言っていたんですけど、



坪川祥子さん



庄野安香さん

やっぱり作る側が「そこでどういうことをしたいのか」っていうことを最後までイメージしきれなかったみたいなんです。

庄野：「コーナー」にしかならなかったものね。

坪川：もう一つは「非常口」が不満なんです。明るくて広々してるんだけど、外にいきなり出られない。

庄野：閉じこめられているという感じね。

坪川：感じだけじゃなくて、本当は非常時にやっぱり大事な問題なの。

大久保：障害者の方がとくにね。障害者にとって優しいということは子供や高齢者にとっても優しいということだ……っていうのを誰かに聞いたけど、最近はその基準に建物を見るようになって……

庄野：そういうのが、この会をきっかけにして分かったことよね。車イスの方に教えていただきましたね。

学生：図書館が出来てからは、中のソフト面でいろんな催しだとかをやっていこう……という感じですか。

坪川：図書館っていうのは、建物が5%で、残りの95%は資料と職員といわれているんです。ソフト面は「欲しい資料が手に入る」……それに尽きるんです。欲しい資料が手に入らなければ、どんなに良いイベントを山のようにやっても図書館じゃないんですね。逆にイベントがゼロでも、「あそこの図書館に行けばなんだか欲しい資料が手に入るんだよね、早く美しいのが手に入るんだよね」ってなったら利用者を増やしていけるんです。

大久保：でも、歩いてとか自転車で行ける距離とかに図書館がある……ってということが一番大きいんだよ。

庄野：市も2つ目を作る時心配したらしいのよね。2つも作って利用はあるんだろうかって。全然そんなことないの、図書館に限っては。5つ作っても6つ作っても、近ければ近いほど見向きもなかったような人まで足を向けるようになる施設なの。掘り起こすのよね。だから、利用者と図書館がもっと率直に意見を交換しながら良くなってほしいと思うのね。私たちの会も職員の方が本当に大変なことを少ない人数で



服部季子さん



大久保憲子さん

やっているんだということが分かって、良い意味で応援団になりたいなって思ってるんです。それから、お父さんたちも「図書館行きたくても行けないじゃないか。どうしてくれるんだ。税金払っているよ」って声をもっと出してほしい……。

服部：利用者の支持が無ければ行政は予算をつけないのね。だからやっぱり利用者が喜んで利用し、欲しい本があれば「買って下さい」と声を届けて、さらに良い循環で利用率が上がり、行政も「じゃあ次年度は前年度を上回って予算をつけましょう」というように、持続して利用していくってことはすごく大事なことね。

学生：会では例会や読書会、それに会報などを続けておられますが、これから先はどういう方向に……。

坪川：県内にはそれぞれの図書館で頑張っている職員の方と、図書館を頼りにしている利用者があるわけですよ。そのエネルギーを貰いながらお互いに元気づけられたらあって。今年は会の5周年で、私自身「なんで図書館がこんなに好きか？」って考えたんですよ。すると、自分でも気が付かない可能性を引き出してくれる、何かと出会える……という嬉しさなんです。言葉で言うと格好いいけど、お料理がワンパターンになったとか、パザーで何か作って出さなきゃとか、些細なことから生き方で迷ったことも含めて、やっぱり自分の可能性と出会える場所なんて大人になっちゃうとそう無いんです。

服部：私は図書館が持っている機能そのものにすごく惚れ込んだのね。まずタダ。もう一つは、大学や学校のようにお節なことは言わないんです。黙って資料が待っている。心の赴くままに手を伸ばす、それを見るとまた興味をかき立てられる……次々と好奇心がかき立てられる。こういう可能性がタダで利用できるってね。それも税金で出来ている。だからやっぱり良い図書館を作ってほしいし、作るならば中途半端なものは要らない。

地球をデザインする。

**前田建設工業株式会社**

代表取締役社長 前田 靖 治  
福井支店長 堀 田 奎 三

本店/東京都千代田区富士見2丁目10-26号 TEL (03)3265-5551(代表)  
支店/福井市手寄1丁目16-14号 TEL (0776)24-2401(代表)

幸せのページに一枚の写真。

**山岸写真館**

福井大学前通り TEL.23-3602(代)

人・街・未来、響きあう感動

**株式会社 植木組**

取締役社長 植木 康 之

本社 〒945 新潟県柏崎市新橋2番8号 Tel.(0257)23-2200  
本/支店:新潟/東京・東北・長野・柏崎・新潟・長岡・上越  
営業所:金沢・十日町・港南・千葉・横浜・川越・高崎・青森・松本

— 技術と信頼で明日をひらく —

**株式会社 加賀田組**

取締役社長 加賀田 達 二

本社 〒950 新潟市八千代1丁目5番32号  
電話 (025) 247-5171(代表)  
支店 東京・名古屋・大阪・東北

## 介護のこと・老後の生き方のこと

学生：ところで、いま高齢社会のことが問題となっていますが、親の介護やご自分の老後の生き方についてどんな風に考えてますか。

坪川：私は三世代で住んでますが、子育ては保育所なりを使いながら、フル回転しながら自分の人生は揺るがせない……ってうので来たけれど、介護の方はちょっと動揺しますね。子育てはトンネルの先の明かりが見えてるんですよ。だからそこで踏ん張れるわけだけど、介護は違うから。でも、親が忙しくあれこれやりたいことをやってるからって子供が犠牲にならなかったように、介護をして私は犠牲になっているっていう気持ちはそんなにしないと思う。

大久保：祥子さんなんか見ていると、自分が介護してみたい行政に働きかけるんじゃないかって思うところもあるわね。図書館問題から老人問題に……。

坪川：私が何もしないで家にいて介護したら母に断られそう。でも、何かあった時は話し合おうって、それは両親の提案だったんですけど、そういう家にしていきたい……というのは共通の思いだから。

服部：私、娘に「面倒みるから」と言われて「はあ？、なんで面倒見てもらわないかんの」って言ったの。子供といっても社会立ちした人間っていうのは別の人間なんです。いくら親子であっても一つ屋根の下に暮らしたいとは思わない。「隣の敷地ならいいわよ。そのかわりしっかりブロック塀でもしましょう…」って。

大久保：隣でも嫌だわ。親だからついつい言うからね。

服部：そうなのよ。親にとってはいつまでも子供で、ちっちゃい時のようについつい声をかけてしまうんですよ。そういう自分が嫌なのよ。

庄野：私も、やっぱり自分のことが出来なくなった時には老人ホームでも何でも入ろう、その時に出来るだけ周りの人と楽しくやっていたいような人間になりたい、そういう年の取り方をしたいなと思うんですよ。

学生：老人ホームはどうしても住んできた土地を離れて生活リズムも変わってしまうじゃないですか。

庄野：住み慣れたところが一番良いと思うの。だからヘルパーが増員されるとか、デイケアのサービスが確立されるとか。近所によく知った友達がいる環境で暮らしたら、ホームに入ったり最後のところを病院で看



聞き手  
左/山田英代さん  
(福井大学大学院博士後期)  
右/辻中 綾さん  
(同上 前期)

てもらったりということまでの間隔が長くなると思うのね。

服部：安心してお願いできるヘルパーじゃないとね。

庄野：そういう人材を養成する、手当をきちんとする、ヘルパー制度をきちんとするっていうことは、お医者様も往診する体制っていうか、地域の中に患者さんの顔が見える範囲で医療施設があったり、そういう風になるととっても生きると思うのね。相当頑張らなくっちゃ。

大久保：行政が足りないからって、そういうことをやり出したグループがいくつかあるわよね。世田谷だったっけ。自分たちで作ったのね。要するに行政に任せておけない……って言う。もう待ってられないんだよ。

学生：福井の場合なんか「人にみせるなんて」「せっかく家の人がいるのに」ってうるさいじゃないですか。

大久保：そういうのはもう気にすることじゃないよ。

庄野：家で寝たきりにしちゃう方がかわいそうよね。

学生：はい。今日は長時間ありがとうございました。最後に、私たち若者に一言づついただけますでしょうか。

服部：仕事は絶対辞めたらダメ。子育ても女の仕事の一つではあるけれども人生の全てではない。

大久保：でも、育児でもプロになってほしい。

坪川：仕事を持つとか持たないとか、結婚をするしないとか、子供を持つ持たないということは個人が選べることだけでも、子供がいなくても、次の世代を見る目、未来を見るっていう目を自分の中に据えてほしいと思うのね。それは、地球上に生まれた人間として……。

庄野：女性っていうのは地域のことをいつも暮らしの中で密着しながら生活していて、発想の点で男性よりも柔軟性があるんじゃないかなって思うの。それをウソと発揮して、ある意味では世の中を変えていく力が男性よりあるんじゃないか……って期待しています。

(1994年10月29日収録)

## 「限定解除」

ぼくが、自動2輪の中型免許を取ってから9年近く経つ。その間、250ccのバイクを2台乗り継ぎ、今は400ccのバイクに乗っている。中型免許を取った時から少し前までは、400ccまでの中型バイクで十分である、と思いいくつものツーリングを楽しんできた。ところが、最近になってツーリングに出かけると必ずと言っていいほど出合う大型バイクが妙に気になりだし、「大型バイク『ナナハン』に乗りたいたい!!」という衝動に駆られ、夢にも出る始末。

よし、「限定解除」だ!!

401cc以上の「限定解除」と呼ばれる免許は、免許試験場で行われる実技検定試験に合格しないと取得できないので、いざ受験となるわけである。が、試験に使われるバイクは750ccで、今までに扱ったこととはなく、車重も220kgを超えるので、いきなり受験と言うわけにもいかないと思いい試験場の隣にある練習場に通うことにした。

練習場で10時間ほど練習してからいよいよ受験。「一発合格」をめざして臨んだがあえなく不合格。どうも自己流の悪い癖が染み着いているようだった。そこでもう一度練習して再チャレンジと思った矢先、仕事が忙しくなってしばらく中断。次に受験できたのが1ヵ月後だったが、またまた不合格。ようしもう一度、と思ったら冬の間は試験が休み。

こうして、自動2輪の「限定解除」は春へと持ち越しとなってしまった……。

—春よ来い・前田満治(住宅会社勤務・施工担当)



## ネス湖のネッシー

ショッピングセンターを突っ切ると、すでに14、5人乗りのワゴンは出発寸前。出発するやスコットランド訛りの強い英語が機関銃のように耳を突く。けんめいに聞きとろうとするがほとんど分からない。スコットランドの北の街、インバネス川の紅葉した川辺りを約30分走ると小さな遊覧船が待っている。船が走りだすやアメリカ人の娘たちがキャーキャー騒ぎ始める。

その騒がしさをよそに、ネス湖の湖面はあくまでも黒く静かである。細長い湖面の両岸には灌木とヒースの小高い丘がいつまでも連なっている。時折、丘の斜面に白い館が点在し、夕餉の煙が立ち昇っている。やがて、湖面を切るように突き出た平坦地に朽ち果てたアーカート城の残骸が見えてきた。船を降り、丘の中腹から眺めるアーカート城と静かなネス湖、その手前で草を食む羊、穏やかな風情にもヨーロッパ的歴史のはかなさが漂う。

かつて、芭蕉が「夏草や兵どもの夢のあと」と詠んだ北上の高台から、緑に包まれた北上川を眺めたことがあるが、そういうはかなさとか寂しさとは質が違っているのである。暗くて、湖に沈潜していくような寂しさである。この暗い北の国スコットランドで、陰惨な惨劇を繰り返して王位争いを演じ、最後には孤独に打ちひしがれるあのマクベスの世界である。

こうしたスコットランドの地に横たわるネス湖は、暗く孤独な世界に包まれている。世界がどう騒ごうと、あのネッシーはネス湖の深い湖底に今も生きているに違いないと僕は信じている。

—福井市役所・高橋栄次郎



先進技術で未来をひらく

**丸文通商株式会社**

本社 金沢市松島1丁目40番地 電話(0762)69-1880代 千920-03  
 富山支店 富山市八日町310番6 電話(0764)29-7191代 千939  
 福井支店 福井市林町62-3番地 電話(0776)52-8080代 千910  
 七尾営業所 七尾市三島町60番地 電話(0767)53-4411代 千926  
 技術センター 松任市福留町248番地 電話(0762)77-2420 千924

0762 62-9191代

株式会社 英光

金沢市玉川町10番5号

日本最大の  
工系単科大学

**金沢工業大学**

石川県野々市町扇が丘7-1 郵便番号921 電話(0762)48-1100

●工学部  
機械工学科・機械システム工学科  
電気工学科・電子工学科  
情報工学科・経営工学科  
土木工学科・建築学科  
物質応用工学科・人間情報工学科  
環境システム工学科

●大学院・工学研究科  
●博士課程(前期・後期)  
機械工学専攻・電気電子工学専攻  
情報工学専攻・土木工学専攻  
システム設計工学専攻・材料設計工学専攻  
●修士課程  
経営工学専攻・建築学専攻

美しいきわだち



10年ぶりに信州に戻り、4月から信州大学工学部の講師を務めさせていただきます。久しぶりの善光寺平は今、オリンピックに向けて身支度を整えつつ、様々な表情を見せてくれています。

毎日通う道からは、いつもどこかで工事をしている様子が眺められ、昔通った鉄道の跨線橋こそ今はなくなりましたが、新幹線、高速道路、そして様々なオリンピック関連施設といった現代的な装いを身につけつつある様子がうかがえます。まるで、さっそうと世界へ旅立つ準備をしているかのようです。

一方、市街地を取り囲む山々は、新緑、深緑、紅葉、そして白銀と、四季によって表情を豊かに変化させつつ、変わることもない自然の恵みを今も豊かに育んでいます。

市街地での暮らしに目を移すと、オリンピックという国際的な祭りの準備が着々と行われている一方で、七夕、びんずる、えびす講と、昔ながらの風情が感じられる祭りが行われ、ますます街の深みを増しています。

このような鮮やかにきわだった美しい眺めは、ほかでは得難い貴重なものを感じられます。

晩秋には、冷気を突き刺すように色鮮やかな灼熱の花火が打ち上げられ、次に訪れる冬の支度が整ったことを告げました。

そんな身支度にあわただしい長野を、いつもゆったりと見おろしている、変わることもないこの善光寺の境内もまた、美しい冬に向けて支度を整えていることでしょう。 —信州大学工学部・山口 満

移築民家での一流コンサート



中頸城郡柿崎町の佐藤実さんの自宅は、知る人ぞ知る「音楽の館」である。古い民家を移築し、瓦葺き改装の上、広間を再現、室内楽ホールとして、内外一流のアーティストを招き音楽の出会いの場として活用している。

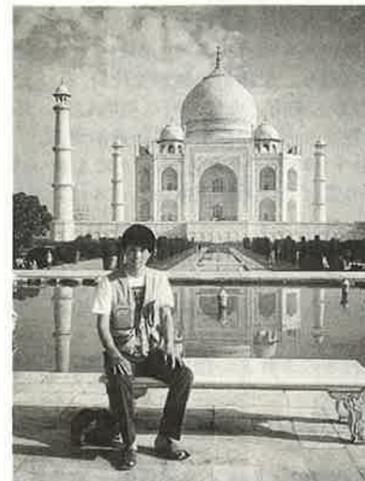
広さ約30坪。吹き抜けと小屋組現しの梁と漆喰の壁は、約40人の小ホールには程良い音響効果となっている。苦心したのは床と天井。ピアノ演奏と聴衆に通常の床張りでは耐えきれず、体育館なみに補強。天井は壁との一体化を図るべく手を加えたという。

町室内楽愛好会主催第27回公演会は、ロンティボウ国際コンクールで活躍された2人によるヴァイオリンとピアノ室内楽であった。公演後、道路拡幅のためこの地の会場の演奏会が最後になると知らされた。願わくば、再移築されて、再び演奏会を耳にしたい所である。ひときわ印象深い演奏会があった。五輪の開始2カ月程前である。スペインピアニストのカルメン・ブラーボ夫人を招いたとき。歓迎のため皆で唱った歌がカタローニア民謡「鳥の歌」であった。ピアノもすばらしかったが、もっと驚いたのは、この歓迎に余程感激されたのか、あのバルセロナ五輪開会式にこの曲を急遽挿入してしまった事だ。夫人はこの委員をされていたという。

数々の公演を実現させた佐藤さんは、65歳のとき、約半年間スペイン一人旅をした。当時の音楽を通じての友人との約束が実を結んでいるという。人と人との出会いのドラマである。

—中央設計㈱代表取締役・高橋伸矢

わしもインドで考えた



タージマホールでもっているアグラ。ここにもあの悪名高いインド商人のバザール(bazaar)がある。なかでもとびきりしぶとく、タフなのがシーク教徒(頭にターバン)の商人である。ただか1万円の商品に3

時間も4時間も粘り、更には、仲間にもおこぼれをと引き回してくれたのであった。これらの店には百円もしないガラクタがそろい、昔の香具師そのままの商売をしていた。発展途上国の商売に共通する掛け値10倍の大叩き売りが繰り返されるのであった。そして、買う気がないとみると、店の出口まで追いかけてきて、なだめたりすかしたりして押しつけようとするのであった。ここで、よそでは滅多に見られない下手な手品がご披露された。6枚組の皿セットを押しつけたのだが、これを包装するとき一番上だけが本物で後の5枚を偽物とすりかえようとしてごそやっているものであった。こんな商売につきあってひまつぶしをした方も方だが、こんな根性のいる買い物は生まれてこの方したことがない。こんなことでめげていたのでは発展途上国での買い物はできないよと、おしかりを受けそうだが、「とにかく疲れた」というのが実感であった。

教訓：表→インドでは遊び半分では買い物はできない

裏→インドでは買い物でだまされても遊びと思えば許せる

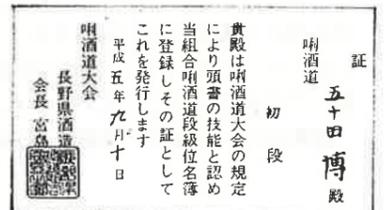
—建築家にならなかった医者・檜山幸孝

シリーズ北陸の酒～芳醇にして切れがある～

「長野のお酒で、新潟、富山、石川、福井に対抗できるお酒ね。ないよ!」。これがほとんどの酒屋さんで返ってきた言葉であった。2年前新潟で建築学会の大会が開催されたとき、長野に来て半年も経っていない私の仕事として課せられた、北陸支部の各支所で地酒を持ち寄って懇親会で振舞酒をするという企画でのことである。わたくし酒どころ新潟生まれの新潟育ち、現在は長野で取得した「利き酒道初段」の資格も有しているが、専ら新潟の酒びいき。長野の地酒は全く知らず、あまりにも唐突で無理な仕事であった。

それから2年あまりが経過し、また、長野の地酒の記事を書けとのことである。長野の酒はちょっと飲んだが、結局、家にある酒といえば実家に帰ったときに持ってきた新潟の地酒である。また困った。そこで違いのわかる男、T教官にヒアリング調査。「長野の地酒といえば“若緑”。芳醇にして、切れがある。昔の日本人が飲んでいたと思われる日本酒の原点」。そこまで言うかと思いつつも早速酒屋へ。

まず冷やで一杯。結構濃いけど、飲みやすいぞ。お燗はどうか。でもその前にもう一度冷やで一杯。新潟の端麗辛口とは全く違う芳醇甘口だな。もう一杯冷やで。んべえには甘くて合わないかもな……なんて思いながら、また冷やで。こくがあるというのはいかな。これは冷やだな!……と思いつつもまた冷やで。……もう味はわからない。ともかくご賞味あれ。



—広報部会・五十田 博

シリーズ隠れた建築紹介～COMMON TENGADOU～

富岩道路を北へ、富山港に沿って緩いカーブを曲がると、神社の太木を背に小ぎれいに手入れされた建物が現れてくる。洒落たショーウィンドーに誘われて内に入る

- ・月日は百代の過客と言います。
・様々なる建築もまた旅人であります。
・日々の活動の中に不易流行の価値を求めたいものです。

株式会社 後澤建築設計事務所

〒380 長野市柳町2056 柳町ビル6F
TEL (0262)35-1007 FAX (0262)35-1006

空気調和・給排水衛生・防災設備工事設計施工

RYOKI 菱機工業株式会社

常務取締役富山支店長 吉田 昭夫

富山市茶屋町601番地 TEL(0764)36-0221(代)
高岡営業所/高岡市野村365-202 TEL(0766)21-4156(代)
黒部営業所/黒部市三日市寺町3141-3 TEL(0765)52-4288(代)

小 畔 建 設

代表 小畔 治

〒939-22 富山県上新川郡大沢野町八木山67-1
TEL.0764-68-1315 FAX.0764-68-3060